

# Hello! FUJISEI

No. 60

## 高齢化率が23%を突破！

# 社会保障費増など 社会に深刻な影響

平成22年10月1日現在の我が国の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は23.1%（前年22.7%）でした。高齢化率が23%を超えた要因は、大きく分けて、①平均寿命の延伸による65歳以上人口の増加と、②少子化の進行による若年人口の減少、の2つです。

戦後、我が国の死亡率（人口1,000人当たりの死亡数）は、生活環境の改善、食生活・栄養状態の改善、医療技術の進歩等により、乳幼児や青

年の死亡率が大幅に低下したため、昭和22年の14.6から約15年で半減し、昭和38年に7.0に。その後はなだらかな低下を続け、昭和54年には6.0と最低を記録しました。近年の死亡率はやや上昇傾向にあり、平成22年は9.5でした。

死亡率の上昇傾向は、高齢化の進展により、他の年齢階層と比べて死亡率が高い高齢者の割合が増加したことによるもので、人口の年齢構成に変化がないと仮定した場合の死亡率は依然として低下傾向にあります。

65歳以上の高齢者の死亡率は、戦後低下傾向が続いており、昭和25年の71.5から、昭和55年には47.4、平成21年は33.4でした。

また、高齢者の死亡率を男女別年齢別にみると、いずれの年齢層においても女性の死亡率が男性の死亡率を大きく下回っています。

社会保障給付費（年金・医療・福祉などを合わせた額）が平成20年度は94兆円を超え、過去最高の水準となるなど、社会全体に深刻な影響を及ぼしています。

死亡数及び死亡率の推移

内閣府「平成23年版 高齢社会白書」より

